

報 告 書

日時	令和 元年 1 1 月 1 9 日 (火) 9 時 5 0 分～1 1 時 3 0 分
研修名	令和元年度 さいたま市青少年健全育成地域の集い 講演会 演題「認知症と子供」 講師 和田 行男 氏
参加者	倉元、稲見、清水、八木、満尾
報告者	倉元 (次回運営委員会報告者：倉元)

報告内容

- ・ 認知症という病気があるわけではない

病気によって今まで出来ていた事ができなくなる症状が認知症

原因となる病気は、アルツハイマー、レビー小体病、変性疾患、脳梗塞など多数

- ・ 視力が弱くなった方が眼鏡をかけたり、関節が悪くなったら補助具を使うように、認知症になっても出来る事があるので、周囲が補助してあげればよい
- ・ 認知症を理解しないで誤解や偏見がある事で、介護施設に閉じ込めたり、何もやらない生活にさせてしまう。出来ない事は補助してあげる事で、働く事もできる。
- ・ 「注文を間違える料理店」の映像では認知症の方が笑顔で働いていた
- ・ 認知症の予防

① 気にかからない。アルツハイマーは原因不明だが、脳梗塞などは予防できる

② 歯を大事する。特に奥歯

③ 脳と体を適度に使う。歩く事、特に階段を使う

④ 笑う。ウフフではなく、ガハハハッで

⑤ 外に出て人にあう。人目を気にする

～講演を終えての感想～

認知症の人を私達の違いは、やり遂げられるかどうかだという事でした。意志がある行動するのは同じだけれども、認知症になると途中でできなくなってしまいますので、子供が何か出来ない時に大人がサポートするように、認知症の人にも手伝ってあげれば良いそうです。

和田さんが国鉄で働いていた頃、障害をもった方が旅行に行く事は考えられなかった。けれども、今は普通になっている。認知症に対する理解も変わって、住みやすい社会になれば良いと思いました。今後の生活に役立てていきたいとおもいます。余談ですが、壇上の花が生花ではなく紅葉した盆栽でとても綺麗でした。生花以外は初めて見たのでとても印象に残りました。

日時	令和 元年 11月 19日 (火) 9時50分～11時30分
研修名	令和元年度 さいたま市青少年健全育成地域の集い 講演会 演題「認知症と子供」 講師 和田 行男 氏
参加者	倉元、稲見、清水、八木、満尾
報告者	稲見 (次回運営委員会報告者：稲見)

報告内容

- ・ 講師の方の人権について考えるようになったきっかけ=子供の頃、家族同然の方が経験した、身分、素性の差から婚約破棄
- ・ 痴呆という差別的言葉から、現代は認知症という言葉に置き換わった
- ・ 老人ホームに入っていると言う事だけで、労働に制限がかかる日本のシステムに警鐘
→認知症の方にも働ける場をと、注文を間違える料理店の経営に至る
- ・ 子供のうちから学校でも、脳の仕組みを学ぶ場ができるよい
- ・ 家事は、とても脳を使う→ぜひ、男性の家事参加も
- ・ 適度な運動、人との接触、外見へのこだわり、が生活のはり、認知の予防にも

- ・夫婦仲良く、笑顔の大切さ

上記でも、目から鱗だったのは、認知の方への労働の場所の提供でした。私自身も、認知=世の中から孤立、と考えていた所がありました。

人権について、こんなアプローチからも考える事ができるのだと、この話を聞き、ハッとさせられる。

～講演を終えての感想～

自分の母も一昨年突然歩けなくなり、大した事もしてあげられず、その後あれよあれよと…そんな後悔もあり、この講演に参加してみる事にしました。先にこの講演に参加していたのならば、もう少し気持ちの余裕をもって、亡き母に接する事ができただろうにと…似たような気持ちから講演に参加してる方も多数だったのでは？と、介護に関する講師の方からの質問&挙手の数を見て思いました。これからの高齢化社会、私たち世代だけでなく、今の子供達にも、認知症からの脳への興味、学習が必要なのではないかと言う講師の方の言葉にも至極納得でした。

あっという間の1時間の講演、とても為になりました

日時	令和 元年 11月 19日 (火) 9時50分～11時30分
研修名	令和元年度 さいたま市青少年健全育成地域の集い 講演会 演題「認知症と子供」 講師 和田 行男 氏
参加者	倉元、稲見、清水、八木、満尾
報告者	清水 (次回運営委員会報告者：清水)

報告内容

和田さんは NHK の番組でも活躍されている方で、声も大きく動きも大きくとてもバイタリティーのある方でした。

～心に残った、講演内容～

- ・私達の脳は生まれた時は400グラム、10才で1300グラム、成人で1400グラム

その脳に疾患ができ、脳が器質的に変化し知的能力が衰え、生活に支障をきたす →世間でいう認知症

・かつて認知症は痴呆と言われた時代がありました。人は身なりや言動により判断されがちですが、どんな病であっても本人が一番辛いと思ってほしい

・認知予防

①病気にかからない

②歯を大事にする(奥歯のかみ合わせ)

③調理、掃除、男性も積極的に

④人前にでる。人目を意識する

①～④＝脳と体を適度に使う。ウォーキングなど・・・

⑤少し不便な生活を意識的に行う

⑥豪快に笑う

～講演を終えての感想～

認知症であっても意志はあり、行動できるのに、動き回ると困る人により(周囲の人は迷惑をかけてはいけないと思うのでうね)閉じ込められがちになってしまう。一般社会とのズレを許容されてもらえないのは本当に苦しい事、その為に住みにくくなるのは社会にとってもいい事ではないと思いました。そういう方でも健常者のサポートによりまだやれると思った和田さんは、「注文も間違える料理店」の経営にて証明しました。そんな方達にもお給料を渡している姿は素晴らしかったです。映像で見る、健常者の方達と楽しそうに働く方の笑顔は沢山の事を教えてくれました。

認知症の方達を社会から切り離すのではなく、仲間として受け入れる、そして健常者である私達が寄り添い、合わせていく事が、なお住み良い社会を作っていくと教えていただきました。

最後に、「家族を大事にする」←最後に頼れるのはやはり家族だそうです。